

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200628		
法人名	社会福祉法人 薫風会		
事業所名	グループホームみどりの家連島		
所在地	岡山県倉敷市連島1丁目1番13号		
自己評価作成日	令和 5年 1月 1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、その人にあった生活が送れるよう出来る事にはしっかり目をむけ、積極的に洗濯物畳や、自室の清掃をして頂けるよう支援しています。ホーム内で毎日を過ごすことが多くなっていますが、楽しみである毎朝のラジオ体操やリハビリ体操を行いながら健康を維持しています。認知症進行緩和の為、年間通じて野菜や花を育て、収穫の喜びを感じて頂いています。感染対策も気を付けており、換気・手洗い・消毒・マスク着用を徹底をして行っています。コロナ禍ではありますが、入居者様が望まれる生活に少しでも近づくことが出来るよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200628-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山県岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 1 月 26 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内の他施設や医療機関との連携が密に取れている。利用者が重度化した場合にも、支援相談室と連携を取ることで利用者にとって1番良いケアとなる体制が整っている。基本、食事は居室でゆっくりと食べて頂き、飛沫防止対策として入浴時にはマスクの着用や大声を出さないことにしている。さらに、居室やリビングの換気も十分に行っており、さらなる感染対策も徹底していた。些細な事にも気づく配慮を持った管理者が職員間の連携を大切にしている。「職員からの話を聞く機会を持つようにし、何でも言うことができる雰囲気作りを心掛けている」と答えてくれたところが素晴らしい。それにより、職員の不満や離職率が減って、充実した介護に近づいている施設であった。どの職員が見ても間違えないようにと、食事形態や消耗品がいつでもわかるように掲示したことが、利用者の安心にも繋がっている。コロナ終焉後には、コロナ以前のように自由な生活に戻って穏やかに暮らして欲しいと願う管理者と未来を待ち望んだ職員の気持ちがマッチングして芽生えている。そんな施設が地域の心のよりどころになっていて、日々介護の充実を静かに目指していた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、施設理念に基づき年2回(4月10月)個人目標を作成し、実践・振り返りを行っている。理念は事務所に掲示し毎朝復唱し実践できるよう取り組んでいる。	玄関・各ユニットの事務所・エレベーターに掲示している。毎朝、夜間時の申し送りをする際に理念を唱和している。年2回、個人目標を設定することで職員のやる気が高まり、日々の業務に取り組むことができている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大の為、入居者が地域と直接関わることは現在はないが、地域の方々からの見学希望は感染対策をしながら外から雰囲気を見ていただいている。	町内会に加入していて、行事案内の情報が入ってくる。近隣の人と会った際には、挨拶を交わし、施設に訪問される業者にも、挨拶を交わして交流を深めている。併設する小規模多機能、デイの見学にくる方が、GHも併せて見学に来られ喜ばしい関係も築けている。	コロナ終焉に向けて、今から準備を始めてみてはいかががでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議が開催出来ていないが、地域の方との相談、見学はその都度対応し支援方法を地域の方々に活かせるよう取り組んでいる。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議を開催することが出来ていないため、取り組みについて報告や話し合いをすることができていないが、会議録は開催月に作成し、入り口に自由に閲覧できるようにしている。	介護保険課、民生委員、病院関係者、法人内のGH、近隣のGHの方が参加される。現在はコロナ禍ということもあるので書面にて開催している。入居者状況、行事活動、今後の予定、研修状況などの報告を行った。	運営推進会議で、今以上に意見が頂けるような工夫をしてみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターとは常に関わりを持つようになっている。市町村とは電話や訪問し関係を築くようになっている。	窓口は管理者で、何か困ったことがあればいつでも相談できる関係となっている。直近では、書類申請の際にやり方を聞いた。電話でのやり取りだけではなく、直接訪問することもあり、face to faceの関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアについて全職員が理解をとり取り組んでいる。年2回身体拘束に関する研修を行っている。玄関の施錠は夜間のみ行うようにしている。	管理者は身体拘束はしていないと自信を持って答えてくれた。虐待防止も法人全体で取り組み、書式も法人内で同じ物を使っている。内部や外部の研修にも参加することで意識が高まっている。スピーチロック防止にも取り組んでおり、職員にも管理者が直接注意できる環境となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について年2回研修を行い取り組んでいる。不自然なあざや、言葉の虐待などは見逃さないよう注意をし防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を活用されている方もおられるので、研修を行い職員も理解できるよう学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面にて丁寧に説明を行っている。特に加算はわかりやすく説明を行っており、入居者、家族の理解、同意を頂いたうえで契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱を窓口にて設け意見を頂ける環境を作っている。家族面会時には現状の報告や意見、要望を聞くようにしている。	日頃の様子を写真に撮り、通信として家族に配布している。家族から提出して頂く書類がある場合には、迅速に集まるので助かっている。ここ数年は苦情もなく、管理者の気配りが隔々まで行き届いていて、利用者の要望もできることは叶えてあげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個人面談、ミーティングの場を設け意見を言う環境を整えている。職員からの意見、提案はケアに反映出来るよう話し合いを行っている。	管理者がゲートキーパー役で、日々の言葉かけを大切にしている。何かあれば面談をしたり、話を聞いたりする体制が整っているため、不満や離職率が減っている。転倒が多い場合にはベットの代えを試みたり、食が進まない方には、食事形態を変える工夫が見られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場になるよう定期的に個人面談を行い、声を聴くようにしている。労働時間も相談しながら個々の能力が伸ばせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決めて施設内研修を行っている。感染症対策は新職員を中心に実技研修を行っている。管理者も法人内研修に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在地域交流会は中止となっているが、今まで培ってきた交流で他事業所、他職種とはこまめな情報交換が出来ている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の日頃の様子を把握することで、入居者の思いや訴えを傾聴し、安心して生活ができるような関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは、面会時や電話連絡時に日頃の様子を報告し不安や要望を言いやすいような関係作りを日頃から行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する段階でグループホームがどのような施設であるのかを説明し理解して頂いている。ご本人が必要としていることを把握し、サービスを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とは顔なじみの関係を大切にしている。日々寄り添い話を聞き、尊敬、敬愛の気持ちを忘れず関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大切にしており、気持ちよく訪問していただけるよう、玄関を明るくきれいにし季節を感じていただけるようにしている。面会出来ない月は連島便りを送るようにし情報を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人との面会が思うようにできないが、電話や窓越しでの面会をして頂いている。馴染みの方々との関係を大切にしている。	訪問美容(月1回)の方や、かかりつけの医師(月2回)、業者の方などが長年にわたる馴染みの人となっている。家族や友人と携帯での連絡や窓越し面会を行い、半数以上の家族が週1回は訪れ、利用者への応援メッセージを大きな紙に書いて見せてくれた家族もいて、少しでも交流できるようにとのホスピタリティを醸し出していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、共有スペースの座席は工夫している。距離を取りながら孤立しないかわり方を大切に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内グループへの紹介や希望の施設入所等の相談支援を行っている。契約終了後も関係を継続できるような関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情、態度から気持ちを汲み取り日常の会話を大切にしている。家族の希望、意向も聞くようにしている。	普段からの利用者との関係を大切に、顔元や行動の些細な変化にも気がつけるようにケアに望んでいる。マスクで表情がわかりづらいが、いつもより食事が進んでいないことに気付き、救急搬送を迅速に行えた事例もあった。家族や以前入居していた施設からの情報も聞き、毎日のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居面接時に情報収集を行い、今までの生活スタイルを変えないよう生活環境を整えることが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を記録に残し職員間で情報共有出来るよう努めている。心身状態の変化に対応出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2か月に1回モニタリング、6ヶ月に1回見直しを行っている。状態変化のある時や入退院時にはその都度会議を開催、検討している。	職員の情報共有を徹底させるため、入居時、2ヶ月、6ヶ月に見直しを行い、回覧後サイン(印)をするようにしている。ケアマネは利用者からの聞き取りを行い、家族からのアンケートや医師の意見をもとにケアプランの作成に取り組んでいる。医師からは入退院に関する連絡も密にあり、直接相談できる関係が出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や連絡ノートの活用。フロア会議で情報を共有し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人の状況、ニーズに可能な限り柔軟に取り組めるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、地域の祭りや文化祭、行事やボランティアの受け入れは出来ていない。毎年参加していた地域の防災訓練も参加出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師による訪問診療を月に2回、訪問看護師による健康管理を週1回行っている。他病院受診はご家族に同行してもらっている。医療との連携で24時間緊急時体制を確保している。	訪問診療は月2回あり、利用者全員が入居時に転医している。歯科衛生士による口腔指導は月1回あり、歯の具合が悪くなった時に、受診に行くようにしている(現在歯科にかかる利用者はなし)。救急搬送に関するマニュアルもあり即座に対応できる体制が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院から訪問看護師による健康管理を週1回受けている。細かな健康状態の報告、観察してもらっている。早期発見、早期受診に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域連携室とは常に密な連携が取れる体制づくりに努めている。入退院時はこまめに連絡を取り合い早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針について説明を行い、同意を得ている。重度化した場合は法人内事業所と連携をしながら対応できるよう調整している。	現在看取りは行っていないが、できる限りケアするようにしている。法人内に支援相談室があり、ベストなケアができるような体制が整っていて、重度化した場合には法人内の他施設と連携して対応している。家族とは密に連絡を取り合っており、意見をできる限り聞けるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に対応できるよう、マニュアルを作成し、夜勤者は読み合わせをおこなっている。初期対応の訓練も定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同一敷地内事業所と合同で、年2回、事業所で年1回避難訓練を夜間想定で訓練を行っている。入居者も訓練に参加しており職員全員出来るよう訓練している。	年2回昼夜想定で、隣接する法人内の施設合同で実施した。玄関にハザードマップ、各ユニットの事務所に連絡網を掲示している。災害時には、自動連絡が入るので安心できる。備蓄は、食料や消耗品の他、施設内でも水や米を保管し、隣接する施設で一括管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年1回プライバシーに関する研修を行っている。介護に携わる職員として理解し、人格の尊重、侵害しないよう対応している。	呼称は苗字に"さん"付け。排泄の失敗時には、そっと声をかけて周りにわからないようにさりげなく対応している。利用者に対して、職員が大きな声を出さないように心掛けることを管理者が常に指導し、意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を大切にし、日常の自己決定をしてもらっている。決定できない時は無理のない範囲で選択してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が出来るよう、一人一人の生活スタイルを大切に希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問理美容によるサービスを利用し、好きな髪形にしてもらっている。起床時や入浴時の服も一緒に選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の嚥下体操を行い、安全に食べることができるよう支援をしている。また食事形態も個々にあわせ食べやすく形態を変えて提供している。	食事は3食ケイタリンクだが、米は施設内で炊いている。感染対策として食事は基本居室で食べて頂いているが、どうしても無理な方はリビングで一緒に食べて頂いている。誕生日の月にはケーキを購入し、みんなでお祝いした。利用者の食事形態がどの職員が見てもわかるように、お盆に記載している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、排泄表を作成し、一人一人健康状態を把握している。食事・水分摂取量にムラがある入居者には、個別に確認表を作成し状態を確認、把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に1回訪問歯科による口腔指導を受けている。ブラッシング、入れ歯洗浄の仕方など個々にあった方法で支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能に応じてトイレ誘導を行っている。表情や落ち着かなくなるしぐさを見逃さないよう気を付けている。トイレでの排泄・排便出来るよう支援をしている。	排泄チェック表を活用している。排泄が出にくい方には、表情や仕草から読み取るだけでなく、ドクターと相談して薬の量を調整するようにしている。リハパンから布パンツに改善された事例もある。日中はできるだけ布パンツで過ごして頂き、夜間みの安眠を考慮してオムツを使用している方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維を多く含んだ野菜を提供出来るよう、栄養士と連携している。毎日の体操や個別レクで体を動かすことを増やし便秘にならないよう気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間に2回入浴している。本人不調時や拒否のある時は無理をせず希望の日に日にちを変更している。皮膚疾患がある時は入浴を増やす支援をしている。	週2回の提供で一人30分程度入浴して頂いている。できる限り同姓介助になるように配慮している。感染対策として、マスクの着用や大きな声を出さないように工夫している。入浴を拒否される方には、日時や人を変えて話し、それでも入らない方へは、決して無理強いはいしない方針を取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の就寝時間、起床時間に合わせる支援をしている。就寝前にはパジャマへの更衣をし安楽に休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書は各フロアごとに保管しており常時確認できるようにしている。服薬チェックはセットした後、服薬前、服薬後2人で行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	マスク生活が続き以前の生活とは違っている中でも楽しめる事を行っている。誕生日、毎月の行事は縮小しながら気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は戸外に出ることは少なくなっているが、玄関周りや庭に野菜を植え見てもらおうことで、季節を感じてもらっている。	遠出ができないので、玄関先の花に水をやったり、日向ぼっこをしたりして過ごしている。夏には施設内の畑で、トマトやきゅうりの栽培を行った。レクは、手を使って遊べるように工夫を凝らし、ラジオ体操や職員が考えたレク体操も実施している。通院の帰りのドライブも利用者の楽しみの一つとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は原則所持していない。お金を所持したい入居者・家族には説明をし理解してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば親族からかかってきた電話を取り次いでいる。携帯電話を所持されている入居者もおられ自由に使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにはソファがあり入居者が過ごせるスペースがある。換気・消毒は徹底しておこなっている。季節に合わせて壁画を変えたり玄関には花を生けたり季節感を味わうことができるよう努めている。	密を避けるために、基本は居室で過ごして頂いているが、リビングで過ごすことも可能。TVを観たり、塗り絵や貼り絵などの創作活動をしたりしている。正月には福笑いやカルタ大会を行い、利用者が読み手を務めたことで大いに盛り上がった。リビングの壁面には、正月や節分を連想させる掲示物を貼ることで季節感を味わって頂けるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを置き自由にくつろぐことができるようになってきている。本棚もあり好きな時に好きな本が読めるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく生活できるよう、自宅で使用していたタンスや布団など馴染みのあるものを使用している。使い慣れた化粧品を継続して使用されている入居者もおられる。	娘からもらった大好きな犬のぬいぐるみを飾ったり、化粧をしたりしてお洒落を楽しんでいる。壁面には、どの職員が見ても一目でわかるように、オムツの使用状況や種類がわかるような工夫が見られた。ゆっくり居室で過ごしていた利用者からは、「ここはええよー」との言葉が聞けた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレがわからない入居者もおられるので、わかりやすいように名前をつけている。リビング自席も名前をつけ安心して座れるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200628		
法人名	社会福祉法人 薫風会		
事業所名	グループホームみどりの家連島		
所在地	岡山県倉敷市連島1丁目1番13号		
自己評価作成日	令和 5年 1月 1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、その人にあった生活が送れるよう出来る事にはしっかり目をむけ、積極的に洗濯物畳や、自室の清掃をして頂けるよう支援しています。ホーム内で毎日を過ごすことが多くなっていますが、楽しみである毎朝のラジオ体操やリハビリ体操を行いながら健康を維持しています。認知症進行緩和の為、年間通じて野菜や花を育て、収穫の喜びを感じて頂いています。感染対策も気を付けており、換気・手洗い・消毒・マスク着用を徹底をして行っています。コロナ禍ではありますが、入居者様が望まれる生活に少しでも近づくことが出来るよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200628-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山県岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 1 月 26 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内の他施設や医療機関との連携が密に取れている。利用者が重度化した場合にも、支援相談室と連携を取ることで利用者にとって1番良いケアとなる体制が整っている。基本、食事は居室でゆっくりと食べて頂き、飛沫防止対策として入浴時にはマスクの着用や大声を出さないことにしている。さらに、居室やリビングの換気も十分に行っており、さらなる感染対策も徹底していた。些細な事にも気づく配慮を持った管理者が職員間の連携を大切にしている。「職員からの話を聞く機会を持つようにし、何でも言うことができる雰囲気作りを心掛けています」と答えてくれたところが素晴らしい。それにより、職員の不満や離職率が減って、充実した介護に近づいている施設であった。どの職員が見ても間違えないようにと、食事形態や消耗品がいつでもわかるように掲示したことが、利用者の安心にも繋がっている。コロナ終焉後には、コロナ以前のように自由な生活に戻って穏やかに暮らして欲しいと願う管理者と未来を待ち望んだ職員の気持ちがマッチングして芽生えている。そんな施設が地域の心のよりどころになっていて、日々介護の充実を静かに目指していた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、施設理念に基づき年2回(4月10月)個人目標を作成し、実践・振り返りを行っている。理念は事務所に掲示し毎朝復唱し実践できるよう取り組んでいる。	玄関・各ユニットの事務所・エレベーターに掲示している。毎朝、夜間時の申し送りをする際に理念を唱和している。年2回、個人目標を設定することで職員のやる気が高まり、日々の業務に取り組むことができている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大の為、入居者が地域と直接関わることは現在はないが、地域の方々からの見学希望は感染対策をしながら外から雰囲気を見ていただいている。	町内会に加入していて、行事案内の情報が入ってくる。近隣の人と会った際には、挨拶を交わし、施設に訪問される業者にも、挨拶を交わして交流を深めている。併設する小規模多機能、デイの見学にくる方が、GHも併せて見学に来られ喜ばしい関係も築けている。	コロナ終焉に向けて、今から準備を始めてみてはいかががでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議が開催出来ていないが、地域の方との相談、見学はその都度対応し支援方法を地域の方々に活かせるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議を開催することが出来ていないため、取り組みについて報告や話し合いをすることができていないが、会議録は開催月に作成し、入り口に自由に閲覧できるようにしている。	介護保険課、民生委員、病院関係者、法人内のGH、近隣のGHの方が参加される。現在はコロナ禍ということもあるので書面にて開催している。入居者状況、行事活動、今後の予定、研修状況などの報告を行った。	運営推進会議で、今以上に意見が頂けるような工夫をしてみたいかががでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターとは常に関わりを持つようになっている。市町村とは電話や訪問し関係を築くようになっている。	窓口は管理者で、何か困ったことがあればいつでも相談できる関係となっている。直近では、書類申請の際にやり方を聞いた。電話でのやり取りだけではなく、直接訪問することもあり、face to faceの関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアについて全職員が理解をとり取り組んでいる。年2回身体拘束に関する研修を行っている。玄関の施錠は夜間のみ行うようにしている。	管理者は身体拘束はしていないと自信を持って答えてくれた。虐待防止も法人全体で取り組み、書式も法人内で同じ物を使っている。内部や外部の研修にも参加することで意識が高まっている。スピーチロック防止にも取り組んでおり、職員にも管理者が直接注意できる環境となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について年2回研修を行い取り組んでいる。不自然なあざや、言葉の虐待などは見逃さないよう注意をし防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を活用されている方もおられるので、研修を行い職員も理解できるよう学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面にて丁寧に説明を行っている。特に加算はわかりやすく説明を行っており、入居者、家族の理解、同意を頂いたうえで契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱を窓口にて設け意見を頂ける環境を作っている。家族面会時には現状の報告や意見、要望を聞くようにしている。	日頃の様子を写真に撮り、通信として家族に配布している。家族から提出して頂く書類がある場合には、迅速に集まるので助かっている。ここ数年は苦情もなく、管理者の気配りが隔々まで行き届いていて、利用者の要望もできることは叶えてあげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個人面談、ミーティングの場を設け意見を言う環境を整えている。職員からの意見、提案はケアに反映出来るよう話し合いを行っている。	管理者がゲートキーパー役で、日々の言葉かけを大切にしている。何かあれば面談をしたり、話を聞いたりする体制が整っているため、不満や離職率が減っている。転倒が多い場合にはベットの代えを試みたり、食が進まない方には、食事形態を変える工夫が見られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場になるよう定期的に個人面談を行い、声を聴くようにしている。労働時間も相談しながら個々の能力が伸ばせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決めて施設内研修を行っている。感染症対策は新職員を中心に実技研修を行っている。管理者も法人内研修に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在地域交流会は中止となっているが、今まで培ってきた交流で他事業所、他職種とはこまめな情報交換が出来る。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃から入居者の訴えや思いが伝えやすいような雰囲気作りを大切にしている。伝えられない方には、寄り添い不安を和らげることが出来るような関係を作るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話連絡時に日頃の様子や情報を交換し、安心していただけるような関係作りに努めている。不安もしっかり受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームがどのような場所であるか、伝え理解して頂けるよう説明をしている。本人の状態や家族の必要としていることを早期に見極め対応出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の過去の生活、暮らしを知り、寄り添い話を聞くようにしている。人生の先輩と尊敬の気持ちを忘れないような関係を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係は大切にしている。面会中止の時でも窓越しで顔を見てもらったりしている。訪問しやすいような雰囲気作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親せきの方からの電話はつなぎ話をして頂くようにしている。馴染みの関係が途切れないよう支援している。	訪問美容(月1回)の方や、かかりつけの医師(月2回)、業者の方などが長年にわたる馴染みの人となっている。家族や友人と携帯での連絡や窓越し面会を行い、半数以上の家族が週1回は訪れ、利用者への応援メッセージを大きな紙に書いて見せてくれた家族もいて、少しでも交流できるようにとのホスピタリティを醸し出していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の同士の関係を把握し日常生活のなかで良い関りが出来るよう支援している。共有スペースの座席も孤立しないよう気を付けて配置している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内グループへの紹介や希望の施設入所等の相談支援を行っている。契約終了後も良い関係を継続できるような関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から思いや暮らしの希望をくみ取ったり個別対応時にゆっくと会話をする時間をもうけながら把握している。	普段からの利用者との関係を大切にして、顔元や行動の些細な変化にも気がつけるようにケアに望んでいる。マスクで表情がわかりづらいが、いつもより食事が進んでいないことに気付き、救急搬送を迅速に行えた事例もあった。家族や以前入居していた施設からの情報も聞き、毎日のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前面接を行い家族から話を聞きアセスメントシートに記入している。出来るだけ今までの生活スタイルを変えないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の活動内容や様子を記録し申し送ることで、日々の変化を職員間で共有している。毎日のバイタル測定・食事水分量、毎月の体重測定などで健康状態の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がアセスメントを行い、2か月に1回モニタリングを実施している。ケアプラン作成時家族にアンケートを記入していただき意見を反映するようにしている。状態変更時は見直しを行っている。	職員の情報共有を徹底させるため、入居時、2ヶ月、6ヶ月に見直しを行い、回覧後サイン(印)をするようにしている。ケアマネは利用者からの聞き取りを行い、家族からのアンケートや医師の意見をもとにケアプランの作成に取り組んでいる。医師からは入退院に関する連絡も密にあり、直接相談できる関係が出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、連絡ノートを活用しカンファレンスやケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対し、可能な範囲で柔軟に取り組めるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在地域住民との関りは行っていないが、高齢者支援センターとの交流は大切に行っている。新たな情報も得るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院から月2回の往診があり、体調変化の早期発見に努めている。歯科受診はその都度受診をしており月1回歯科衛生士による口腔指導があり早期受診に繋げている。	訪問診療は月2回あり、利用者全員が入居時に転医している。歯科衛生士による口腔指導は月1回あり、歯の具合が悪くなった時に、受診に行くようにしている(現在歯科にかかる利用者はなし)。救急搬送に関するマニュアルもあり即座に対応できる体制が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院から週1回訪問看護師による健康管理を受けている。細かな状態を観察してもらうことにより早期発見、受診に繋がるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より地域連携室と密に連携を取るようになっている。入居者の入院中も細目に連絡を取り合い早期に退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針を説明し同意を得ている。重度化した時は家族、職員と話し合いを行い、法人内事業所と連携しながら対応している。家族とも早い段階から説明をするよう取り組んでいる。	現在看取りは行っていないが、できる限りケアするようにしている。法人内に支援相談室があり、ベストなケアができるような体制が整っていて、重度化した場合には法人内の他施設と連携して対応している。家族とは密に連絡を取り合っており、意見をできる限り聞けるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてはマニュアルが整備されており、フローチャートを活用し全職員が周知できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同一敷地内の2施設と合同で年2回、事業所で年1回避難訓練を行っている。事業所の訓練は夜間想定で入居者も参加している。	年2回昼夜想定で、隣接する法人内の施設合同で実施した。玄関にハザードマップ、各ユニットの事務所に連絡網を掲示している。災害時には、自動連絡が入るので安心できる。備蓄は、食料や消耗品の他、施設内でも水や米を保管し、隣接する施設で一括管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人にあった声かけを行い必要以上に介入をしない、プライバシーに配慮した対応を行っている。プライバシーに関する研修を行い職員に周知している。	呼称は苗字に"さん"付け。排泄の失敗時には、そっと声をかけて周りにわからないようにさりげなく対応している。利用者に対して、職員が大きな声を出さないように心掛けることを管理者が常に指導し、意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を大切にし日常生活の決定をしてもらっている。自己決定や選択がしやすいような声かけや働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が出来るよう過ごしてもらっている。入居者の体調にも合わせ希望に出来るだけそえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問理美容を利用し、好きか髪形にしてもらっている。起床時や入浴時の服は自分で選んでもらっている。髭剃りも声をかけ整容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の体操など入居者が積極的に関わることが出来るようにしている。おやつや水分補給後自ら下膳される入居者もおられる。	食事は3食ケイタリンクだが、米は施設内で炊いている。感染対策として食事は基本居室で食べて頂いているが、どうしても無理な方はリビングで一緒に食べて頂いている。誕生日の月にはケーキを購入し、みんなでお祝いした。利用者の食事形態がどの職員が見てもわかるように、お盆に記載している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の記録をしており、一人一人の状態の把握をしている。食事量や体重減少がある場合、食事形態の変更や捕食等考慮し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に1回訪問歯科による口腔指導を受けている。ブラッシング方法、口腔状態に気を付けながら自分でできるところは磨いてもらい、磨き残しの確認をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しており昼夜問わず、トイレ誘導を行っている。落ち着かない行動や表情を見逃さないよう気を付けトイレで排泄出来るよう支援している。	排泄チェック表を活用している。排泄が出にくい方には、表情や仕草から読み取るだけではなく、ドクターと相談して薬の量を調整するようにしている。リハビリから布パンツに改善された事例もある。日中はできるだけ布パンツで過ごして頂き、夜間みの安眠を考慮してオムツを使用している方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維を多く含んだ野菜を多く摂取するようにしている。水分量も記録し多めに接種頂けるよう心掛けている。毎朝の体操も日課にして体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2, 3回の入浴を基本としている。同性介助に努め個々に沿った入浴支援に取り組んでいる。	週2回の提供で一人30分程度入浴して頂いている。できる限り同姓介助になるように配慮している。感染対策として、マスクの着用や大きな声を出さないように工夫している。入浴を拒否される方には、日時や人を変えて話し、それでも入らない方へは、決して無理強いはいしない方針を取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活パターンに合わせ休息してもらっている。本人の希望を聞き、パジャマに着替え安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が行っている。次の日の薬の準備や直前の服薬は必ず2人で確認する。服薬後の空袋も飲み残しがないか確認している。服薬前には本人の目の前で名前を読んでから服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	マスク生活や外出・面会制限があり楽しみが少なくなっているが、創作など個別で出来るものを楽しんでいる。誕生日にはケーキを購入、入居者で誕生日祝いをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在感染拡大で外出制限があり、戸外に出かけることはほとんどなくなっている。面会も窓越しで行ったり玄関周りの花や野菜を見ることにより気分転換をしている。	遠出ができないので、玄関先の花に水をやったり、日向ぼっこをしたりして過ごしている。夏には施設内の畑で、トマトやきゅうりの栽培を行った。レクは、手を使って遊べるように工夫を凝らし、ラジオ体操や職員が考えたレク体操も実施している。通院の帰りのドライブも利用者の楽しみの一つとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は全員していない。契約時の説明を行い本人と家族には理解して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話は、取り次ぎ話をして頂いている。携帯電話を持っておられる入居者もおられ、自由に話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく室温管理、換気の徹底を行っており快適に過ごせる空間となっている。壁面には季節の飾りや花を生けており、居心地の良い空間を作れるよう工夫している。	密を避けるために、基本は居室で過ごして頂いているが、リビングで過ごすことも可能。TVを観たり、塗り絵や貼り絵などの創作活動をしたりしている。正月には福笑いやカルタ大会を行い、利用者が読み手を務めたことで大いに盛り上がった。リビングの壁面には、正月や節分を連想させる掲示物を貼ることで季節感を味わって頂けるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごす時間は入居者同士密にならないよう気を付けている。居室でテレビを見たい方、ゆっくり横になりたい方など本人の意向にあわせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた馴染みの家具や布団を持参している。また写真を飾ったり好きな化粧品を使用している入居者もおられる。使い慣れたものを使用することにより落ち着いた生活が送れている。	娘からもらった大好きな犬のぬいぐるみを飾ったり、化粧をしたりしてお洒落を楽しんでいる。壁面には、どの職員が見ても一目でわかるように、オムツの使用状況や種類がわかるような工夫が見られた。ゆっくり居室で過ごしていた利用者からは、「ここはええよー」との言葉が聞けた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	細目に環境整備を行い、安全に過ごせるよう支援している。自分で出来る事はして頂き、自立した生活が送れるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない